

## ニセコ・有島記念公園「尻別イトウ Pond」建設事業

北海道尻別川は絶滅危機種イトウ（サケ科）の生息南限です。当会は 2001 年策定の「オビラメ復活 30 年計画」に基づき、2004 年度から、研究機関や地元自治体など関係機関と緊密な連携を図りながら、尻別川水系でイトウの再導入（補充）実験を慎重に進めています。

当会のイトウ再導入（補充）事業にとって、再導入個体の生産・管理は大きな課題です。当会はすでに 1998 年から、尻別川で捕獲した野生親魚、また 2003 年からはその野生親魚を「オリジン」とする人工孵化イトウを飼育していますが、60～90センチの多数の大型魚をより健康的に飼育し続けるための新設建設を計画し、このたび貴財団の手厚いご支援をちょうだいして、地元ニセコ町内の有島記念公園内に新しい飼育池「有島 Pond」を完成させることができました。

用地は、ニセコ町有島記念公園内を流れる尻別川水系真狩川支流の第 2 カシュンベツ川沿いの河川敷をニセコ町から無償でお借りしました。

着工に先だち、2015 年 6 月 2 日夕後、有島記念公園内の有島記念会館で、「絶滅危惧種イトウ復元のための施設設置についての説明会」を同町と共催し、地元にお住まいのみなさまをはじめとする関係者のみなさまに、イトウ保護の意義や、Pond についての詳しい説明を行ない、またご質問にお答えしました。

この時に寄せられたご意見などもふまえて 8 月までに詳細設計を行ない、9 月に着工しました。現地は、かつて同公園内の親水施設（人工 Pond）が施工された場所に泥が堆積して湿地性植物が繁茂し、一部樹林化していましたので、景観や自然環境を損ねないように最大限配慮しつつ、草刈りや伐採を行ない、Pond 面積を確保しました。小型重機で素掘工事を行なった後、取水・排水口、観察通路などは、当会会員およびボランティア参加者を募り、専門家の適切な指揮管理のもと「手づくり方式」で造営しました。Pond の大きさは以下の通りです。

### Pond 諸元（満水時）

水面の長さ	25.6 メートル
水面の幅	12.7 メートル
水面積	188.4 平方メートル
貯水量	201.5 トン
最大深さ	1.5 メートル

11月7日午後、ポンド完成のご披露をかねて、イトウ親魚のポンドへの放流会を現地で開催しました。片山健也ニセコ町長をはじめ、大勢の町民の方が参加くださいました。この模様は『北海道新聞』『読売新聞』、またNHKニュースで報道されました。またポンド建設を含む当会の活動が高く評価され、12月、日本ユネスコ協会連盟の「未来遺産プロジェクト2015」に登録されました。

ポンドでは1月末現在、計11尾の尻別イトウ親魚を飼育しています。今後、健康状態を観察しながら飼育尾数を増やし、性成熟するまで育てて採卵し、生まれた稚魚を尻別川に戻すことによって、尻別川のイトウたち復元の呼び水にする計画です。貴財団のご支援に改めて感謝を申し上げますとともに、イトウ尻別川个体群の復元に向けて、どうぞ引き続きご協力をいただきますようお願い申し上げます。



ポンドの取水口を調整するオビラメの会メンバーたち（2015年11月1日）



ポンド完成披露会のようす（2015年11月7日）



完成したばかりのポンドに尻別イトウを放流しているところ。性成熟するまでポンド内で育てます（2015年11月7日）



ポンドに設置したイトウ解説のサインポスト